

佐久市駒の里過疎対策プロジェクト支援金事業 自己評価報告書

評価目 平成27年3月20日

団体名	多津衛民芸館運営委員会		
事業名	地域文化育成普及事業		
対象経費	728,059円	支援金額	364,000円

事業の目的・内容	<p>目的</p> <p>日常使う陶磁器や木製品・布などの中に美を見出し、人々の暮らしの豊かさを求めた民芸運動は、信州でも大きな広がりを見せたが、佐久市出身の教師小林多津衛はその運動の中心的な一人であった。このたび、小林多津衛が佐久の先人として顕彰されたのを機に、改めて多津衛のめざしたものが佐久地域に広がることを願い、多津衛民芸館の事業がさらに発展することを期してこの事業を企画した。佐久地区で活躍する工芸家や音楽家を広く紹介する機会を作り、また、工芸を学びたい人に、その機会を提供し、発行する冊子には多津衛が願った民芸の心や関連する研究を記載し、本当に豊かな暮らしとは何かを広げていきたい。</p>
	<p>内容</p> <p>①地元工芸家や、県内工芸家の作品を展示する作品展示会開催、6月(出品者2人)・8月(5人)・11月(20人)来場者多数 ②地元音楽家のコンサート開催、6月(出演者3人)・9月(2人)・12月(1人)来場者はいずれも70~90人程度 ③地域の文化や暮らしなどを取り上げた冊子の発行、7月(60ページ) ④小林多津衛の顕彰や地域づくりなどに関する講演会学習会の開催、8月・11月(参加者は5~60人程度) 会場、発行元はいずれも多津衛民芸館</p>

事業の活動実績	<p>①地元工芸家や、県内工芸家の作品を展示する作品展示会開催、6月鍛金・木工展(出品者2人)・8月漆・木工・陶磁・木工・琴5人展(出品者5人)・11月平和と手仕事展(出品者は地元工芸家20人)来場者多数 ②地元音楽家のコンサート開催、6月オカリナ・サクソ・ピアノコンサート(出演者3人)・12月クリスマスピアノコンサート(1人)来場者はいずれも50人程度 ③地域の文化や暮らしなどを取り上げた冊子『平和と手仕事』の発行、7月(66ページ) ④小林多津衛の顕彰や地域づくりなどに関する講演会学習会の開催、8月宮本憲一講演学習会(参加者は40人程度) 会場、発行元はいずれも多津衛民芸館 ⑤多津衛民芸館の案内標識を新しくできた</p>
---------	--



事業の成果・効果	<p>「民芸」という言葉を生み、日本民芸館を造った柳宗悦は、職人たちが作った生活に必要なもの、器や布・木製品の中に美しさを発見し、地域の個性あふれた文化の大切さ世に問うた。小林多津衛は若き日から柳に傾注し、自身も民芸の品々を蒐集し、展示会を開き続けた。その多津衛の願いを多くの人が共有し、協力しあって多津衛民芸館は造られた。身の回りは質素でいいから美しくする。その「民芸の心」を少しでも多くの人に広げ、地域文化の向上に役立ちたい、そう考えて事業を企画した。展示会やコンサートや講演会では、準備会や当日、そして反省会の中でいつも多津衛の願いが語られ、「本当の豊かさ」について話し合われた。また、冊子の発行では、多くの人たちに「これからの暮らし」について考えていただける内容を盛り込んだ。多津衛民芸館を訪れる人たちのために、民芸にふさわしい案内標識を設置した。多くの人たちの心がつながり、生きる力の一助になったと思われる点は、この事業の成果と言えるだろう。</p>
----------	--

自己評価	事業は申請どおり実施できた	<p>1 できた ○2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由(3、4と答えた場合のみ)</p>
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	<p>1 できた ○2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由(3、4と答えた場合のみ)</p>
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	<p>1 ほとんど同じ ○2 多少の変更があった 3 大幅に変更している</p> <p>主な理由(2、3と答えた場合のみ)</p> <p>9月のコンサートが実施できなかったため、年3回の予定が2回となった。</p>
	その他、評価すべき点等	<p>事業実施によって、当日だけでなく、その準備や反省会も含めて、多くの来場者があった。小林多津衛が願っていた「真に豊かな暮らし」「お互いが慈しみ合い、支え合う暮らし」を、地域の中に広めることができた。</p>

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自已診断です。

今後の事業展開	<p>平成26年度に実施した事業を発展させ、より多くの人に参加していただけるよう工夫したい。多津衛民芸館の活動が、日本民芸館や日本民芸協会に認められ、平成28年7月に、日本民芸夏季学校を多津衛民芸館で開催するよう要請があり、引き受けることになった。佐久市当局の後援もいただきたいと願っている。平成27年度はこの夏季学校開催の準備や研究活動、館の整備に取り組みたい。</p>
---------	--